

1 検証結果【車両避難の受付】

受付手順の検証

1. 駐車場入口付近の安全な場所

車と人の動線が重ならない安全な場所に受付を設置した。

2. スタッフの防護

避難所の入口であり、体調不良者との会話もあることから、マスク、目の防護（フェイスシールド等）、飛沫の防護（ガウン等）を着けて対応した。

直近にスタッフ用のアルコール消毒液を準備し、ゴム手袋は不要とした。

3. 避難者への運営スタッフの声掛け

窓は全開ではなく、会話が聞き取れる程度（5cm程度）空けて対応した。

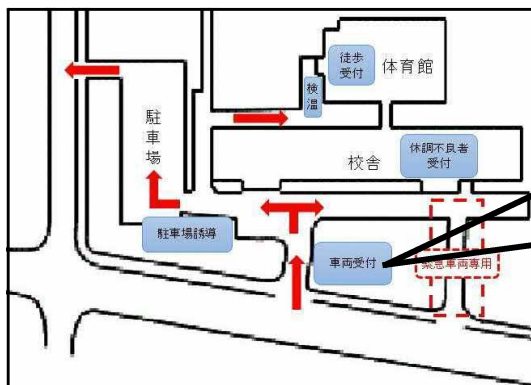
スタッフと運転者は向き合わず、同じ向きになるようにスタッフを配置した。

確認漏れを防ぐため、説明用紙を運転者と一緒に見ながら説明した。

車両証明書、駐車図面、説明用紙はファイルで渡し、短時間で終了させた。

車中泊を希望する場合は、車中泊のリスクの説明と併せて着圧靴下を配布した。

説明用紙など配付した資料は、末尾添付「配付資料」参照



専門家の指導・課題

1. 荒天を想定した受付

避難所を開設する気象状況を考えると、大雨や強風の状況で受付をすることも想定される。

スタッフの服装や避難者とのやりとりなど、荒天時を想定して準備をしておく必要がある。

2. 車両避難の受付場所

車両避難の受付の設置場所は、施設の構造で大きく異なる部分であるが、駐車場と体育館、校舎などへの動線が混ざらないように丁寧な説明や図で示す必要がある。

3. 満車時の対応

駐車場が一杯となった場合に『満車』と表示することが想定されるが、その後に避難してきた車には、「〇〇避難所に移動してください」などのアナウンスが必要である。

車両受付担当は、災害対策本部からの避難所開設情報や体育館の受付と常時連絡を取り合い、避難者を確実に誘導する必要がある。

4. 車中泊のリスクと予防への積極的な取組

安全な車中泊というものではなく、必ずリスクがあることから、車中泊は推奨していない。

特に新型コロナウイルスは、血管の炎症や血栓ができやすいとの報告も一部なされており、同じく血栓により健康障害を引き起こすエコノミークラス症候群の予防は、非常に重要である。

今後は、呼び掛けによる周知に加え、弾性ストッキング（着圧靴下）やペットボトルの水を配布するなど、車中泊に伴う災害関連死を防ぐ積極的な取組が必要となる。